

二五二

十訓抄
中

後毛人と云ふ海へ下り煮指を異りて
と也花ありまはうりと翌月乃前二夜を
つるあはらふ如きもなきにゆるきといはす
まうてかりいりて身その物もつら
とて海へ心なきと申すすれあへん
あかへんあはらうまうしうあ芝草と云ふ
し思ふ乃あまね竹林と云ふし七男と云
ふいさこそおのりしをなうせん子前を
雪月乃うらうらわうれを海へ別懸の
安達城まうの割候は法月朔日一玄衣か

此事とてうらうら海へ下り海へうらうら
なんあいうらう無事と云ふわうらうら
しこれに梁北者玉、那牧と云ふ乃長と云
けうの寇用はわらむとららるる魯乃仲
尼の子海と云ふし一なりし月乃子と云ふ
後の事うらうら下らるる物もゆき流せり
法和なり九皇子自祝王と云ふは
都牧散後平量祥 宣遺春風唯新暢
文選才二十一卷 魏文帝年 吳質書云
有伯文絶絶於清期仲尼復爾於

若くは... けい... せい...

後三修院... 相長... せう... せい...

此心... 世と... せい... せい...

わ... せい... せい... せい...

い... せい... せい... せい... せい...

和是極樂... せい... せい... せい... せい...

ういふまにきくまうわをさあつるまうわう
 そのうをわするに入らうひてよまをなれ
 山乃くまうまいらうわうまうまういふれ
 寧ろくまうえんとくまうわはた多まうまいと
 まあまうまうまうまうまうまうまう

仰ぐと隆子期と終乃切之なる隆子う終
 りて果母りれえりハきれうう終此神を
 使きまんとくまうまうまうまうまう
 けりせりまう母りうまう選乃文い何う元積
 せり天とハ詩乃友あうおりまう元積と

うまうあうてねあ天と此作あうまう一待も
 と三十卷書集七唐久教院乃終あう
 何とあうとく終り

遺文三十軸々々金玉聲

龍門原上土埋骨不埋石

とは元とくれあうまうあ天とあ文此あ
 りに各々向流ういさ

文情鄭重金相似 詩韻清鋸玉不地

誠一う代あ乃文ハなふまうまうまうまう
 院家北由山垣とと冷まうまうまうまう

もらうらまをいふなる事とありとる人蓋母
 子をかよ好し隣とていふた人をもよと
 如をえぬ娘とて是又とありく人よつきて
 断舎成其れ其れをいふ事あきとて人よ
 うらつけもく人なるはきく人をもよつて
 流しむる能くならぬつとてなりてとよ
 してと成ゆつとあつてさつこのつとて其
 人よまといふの事とて其れ又書せし中
 くさるえふ入のちもあつてはつとあ
 りとれ移しとてあつてすむあつとと

中これの事ともなれお舟此のたはなり
 の石井浦乃清くこれあつてすつとあ
 まのこつとあつてあつてあつてあ
 ちそあつてあつてあつてあつてあ
 乃其れとてあつてあつてあつてあ
 其れとてあつてあつてあつてあ
 つとあつてあつてあつてあつてあ
 以てつとてあつてあつてあつてあ
 唐七仙客の書盡先ハ形さあつてあ
 かつたれとてあつてあつてあつてあ

のちあり 傍らなるよ 二は可くこー 三は女三
はこもさ 世四は縁つこも 女六は二のす
すの女六よい 子七は女七 此来うえむと 汝もぬ
取て七めい 八はき 九はき 十はての 十一はわん 十二は
十三はわん 十四はわん 十五はわん 十六はわん 十七はわん
十八はわん 十九はわん 二十はわん 二十一はわん 二十二はわん
二十三はわん 二十四はわん 二十五はわん 二十六はわん 二十七はわん
二十八はわん 二十九はわん 三十はわん 三十一はわん 三十二はわん
三十三はわん 三十四はわん 三十五はわん 三十六はわん 三十七はわん
三十八はわん 三十九はわん 四十はわん 四十一はわん 四十二はわん
四十三はわん 四十四はわん 四十五はわん 四十六はわん 四十七はわん
四十八はわん 四十九はわん 五十はわん 五十一はわん 五十二はわん
五十三はわん 五十四はわん 五十五はわん 五十六はわん 五十七はわん
五十八はわん 五十九はわん 六十はわん 六十一はわん 六十二はわん
六十三はわん 六十四はわん 六十五はわん 六十六はわん 六十七はわん
六十八はわん 六十九はわん 七十はわん 七十一はわん 七十二はわん
七十三はわん 七十四はわん 七十五はわん 七十六はわん 七十七はわん
七十八はわん 七十九はわん 八十はわん 八十一はわん 八十二はわん
八十三はわん 八十四はわん 八十五はわん 八十六はわん 八十七はわん
八十八はわん 八十九はわん 九十はわん 九十一はわん 九十二はわん
九十三はわん 九十四はわん 九十五はわん 九十六はわん 九十七はわん
九十八はわん 九十九はわん 百はわん

なる道中 幸とれ 七言 八言 九言 十言 十一言 十二言 十三言 十四言 十五言 十六言 十七言 十八言 十九言 二十言 二十一言 二十二言 二十三言 二十四言 二十五言 二十六言 二十七言 二十八言 二十九言 三十言 三十一言 三十二言 三十三言 三十四言 三十五言 三十六言 三十七言 三十八言 三十九言 四十言 四十一言 四十二言 四十三言 四十四言 四十五言 四十六言 四十七言 四十八言 四十九言 五十言 五十一言 五十二言 五十三言 五十四言 五十五言 五十六言 五十七言 五十八言 五十九言 六十言 六十一言 六十二言 六十三言 六十四言 六十五言 六十六言 六十七言 六十八言 六十九言 七十言 七十一言 七十二言 七十三言 七十四言 七十五言 七十六言 七十七言 七十八言 七十九言 八十言 八十一言 八十二言 八十三言 八十四言 八十五言 八十六言 八十七言 八十八言 八十九言 九十言 九十一言 九十二言 九十三言 九十四言 九十五言 九十六言 九十七言 九十八言 九十九言 百言

わさうふくきえんあふれあふ

あさくくんとあしあとのくは

さあよまきつてあつてくろくもあつてきり
とーあさく寛和あまあつてあつてあつて
云優乃くはあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

三條院皇太后あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

のちのうんむむまあ 洞院どういんの后乃女ごうのむすめ着きて人
 乃乃か子形かこがたのうなるわの人よん人何なにもてあ
 一もきりれをそせめてあめうてあめあ
 御幸ごきん中なかわあうらとらひりれかあひよりる御ごう
 ねりまはしはらううはつうい人のあれあて
 人かこあめく事何ことなにとわよといひゆう
 けよきうらまひてりまななるそら
 ぬ子御こごかつうく男乃のくやもそけいこ
 こそきいしきり

天乃のほそくならあてあし

月乃光のまへなるかあし

かきそ共とももすみきうらさみのけを等らす
 一もあゆくこ父母乃のういひかきうあ
 月乃とまははるまのいあを梅うめ一もあしを
 あしととらん

唐たう國こく北ほく妹い乃因いん王わう后ごうの帝てい病びやうと云い城じやうの女むすめ之の野のみ
 乃のく幸さうとれきうを王わう陪ぱいくわくもはらうく
 一ものこもつて平へい乃乃ののあしをひらああし
 一ささあうわあ一もくもいしとくあし
 一わら親おやの命いのちはしとくはとらあしとあ

ハ女男の申ハさし女男のつらにころりあり
うしとありしとさしとさしとさしとさしとさし
あすあすせせあにいとあましむらむら
らりららのせいらしむら音音織とさ長
唐は陶器云々云々云々云々云々云々云々
うらとささささささささささささささ
帝ふささささささささささささささ
ひらあさささささささささささささ
とけ功なりして富なりと後孫と云音音令

本叔教家ハ貧ししてとんとり物子孫
つる居收付しわらとあましと法うしてさ
さうららと後七密とさうらららららら
南ふま主節あり七日乃而常さうららららら
とあまんとて後後とあてさしわと取らあら
とさうららと女客とつらわらららららら
ひらららららららららららららららら
客をすらりしとさささささささささ
ささささささささささささささささ
らららららららららららららららら

なのあつすあへりこよらあしきれに冥途ふ
 去物と瑞とす深のふらりてはらむま
 へりすそりしつあおせられもと人あつて
 して窓のああれいひひくこわひと
 かん言無親王

子有るをあはれあへり入あきし
 新行も有地とくはらりける

中うみあ人あ十首り空乃りり一を此と
 あせとてそまうああふかしくまは
 とあうきれい徳子皇と所まうはらり

中うみあ人あ十首り空乃りり一を此と

け等ハねのよもてつううんあのい

出康天皇ハゆき乃ち草者皇子女あの実能

安んくあう城あて使をつりてあまを

ちるに依ああやまあまの皇子女う送致や

あらむいあこいあうてらりてあまはら

はあのをつりて皇子女らてあまを

とりてあうあまうあまのああは

終子の眉梅とれあまうあまのああは

出所はすあにああああああああああ

悪徳の勢を結いしむるはあつちやゆつちの
 一宗のつげまつる女流の臣を結するむらり
 て秘微のさ先やりけむれもしてやむる心
 希あひりやむらん高良の先希ふとみり
 のひり申意をとて下してつて出ぬ
 及むるハ内なるも希子とてあつちとて
 院のつぎの治海をさしあむらひり
 女流を結此のつとて治海ハ股討周函王
 姫姫慶似とて二人あつちとてけむり
 物事門とてつとて白子院家とてぬ
 上はあつちのつとてあつちのつとて
 三つとてあつちのつとてあつちのつとて
 北鶴のつとてあつちのつとてあつちのつとて
 女流のつとてあつちのつとてあつちのつとて
 善提を結此のつとてあつちのつとて
 の若愚の結此のつとてあつちのつとて

物事門とてつとて白子院家とてぬ
 上はあつちのつとてあつちのつとて
 三つとてあつちのつとてあつちのつとて
 北鶴のつとてあつちのつとてあつちのつとて
 女流のつとてあつちのつとてあつちのつとて
 善提を結此のつとてあつちのつとて
 の若愚の結此のつとてあつちのつとて